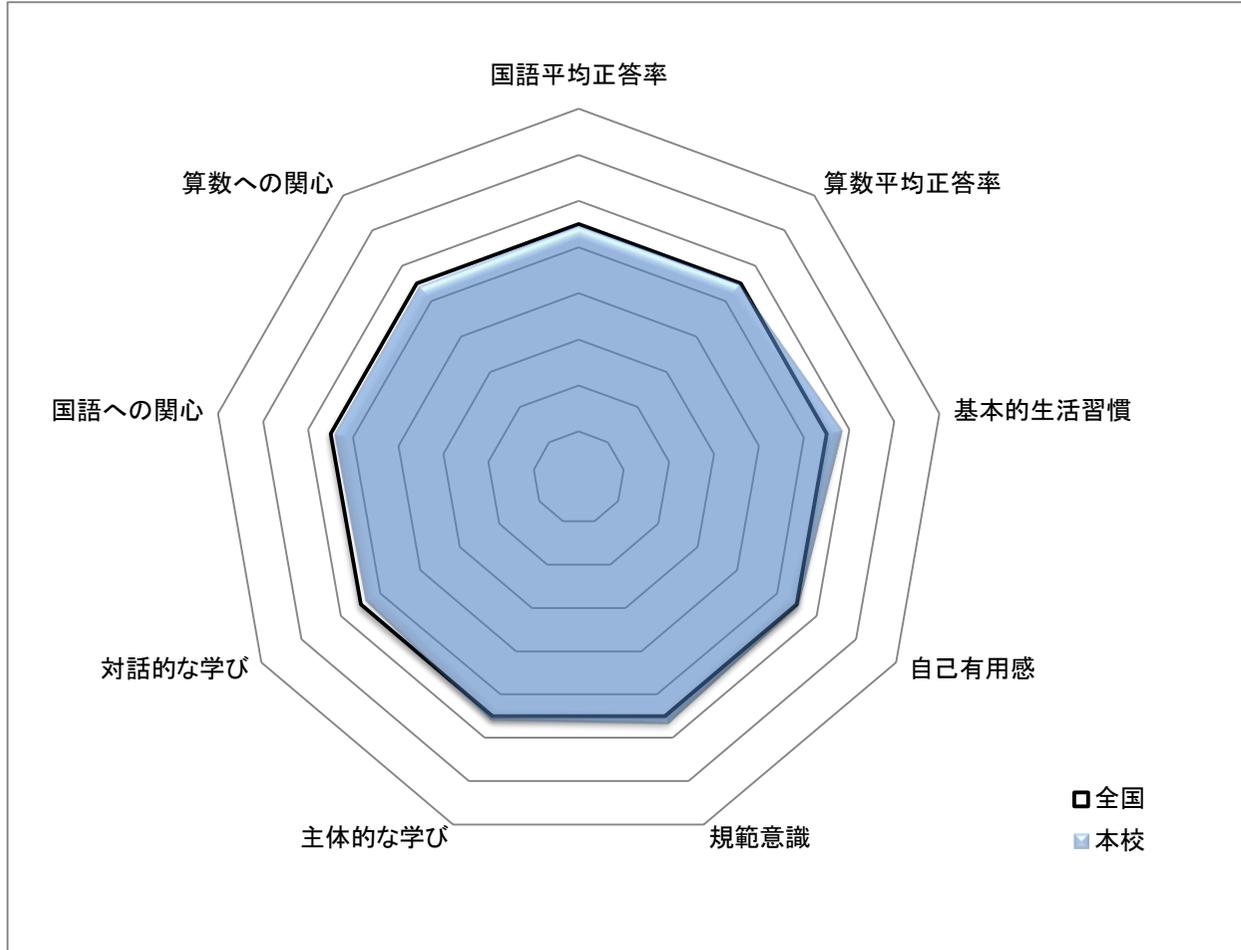


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

基本的な生活習慣は確立しており、生活リズムが整っていることが、生活面においても学習面においても良い結果につながっているものと思われる。自己有用感と規範意識についても肯定的回答が多く、意識の高さがうかがえる。学びに向かう姿勢では、全体的に積極的な回答が多いが、話し合いを通じた学びについて若干の課題が見られる。国語や算数の学習を好む児童の割合は約6割と平均的である。また、学びの意義については肯定的な回答の傾向が見られた。

《授業改善のポイント》

話し合いの機会を意識的に設け、学び合いの意識を高める指導に取り組んでいく。また、学び合いの機会を効果的に活用するために、タブレットのアプリケーションを用いて自分の考えを整理するなど、伝える力を伸ばすことを目指していく。物語のテーマをとらえたり登場人物の心情の読み取ったりするなど、国語的な読解力や表現力を高めるための活動に積極的に取り組んでいく。

数と計算、変化と関係に関する設問の正答率が全国平均を下回っているため、基本的な計算力の向上が課題にあげられる。タブレットのソフトを使用して、計算力の定着を図る時間を設け、力を伸ばしていく。

《チャートの特徴》

全ての項目において肯定的な回答の割合が、全国の平均とほぼ同等の値を示している。また、基本的な生活習慣が7%、自己有用感が1%、規範意識が4%全国の値を上回っており、本校の生活週間啓蒙活動である「7つの合い言葉」の取り組みの成果が現れていると考えられる。

算数・国語への関心も、肯定的回答の割合が全国とほぼ同等になっている。また、対話的な学びについての肯定的回答は全国値を若干下回るが、主体的な学びについては、2%ほど全国値を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会や学校ホームページを通して本校の生活指導目標を示した「7つの合い言葉」の取り組み状況を地域や家庭と共有し、基本的な生活習慣の改善に生かしていく。